

外部団体と連携した防災教育プロジェクト

NPO、大学生と一緒に体験した都立高校での「防災体験プログラム」

自分の身は自分で守ること、高校生でも危機対応(人を助ける)ができる存在であると感じ、防災知識・技術の習得の必要性を認識することを目的に、都立八王子北高校で実施しました。

■協力団体

NPO法人コドモ・ワカモノまち ingi、災害救援ボランティア推進委員会

SKV (Senshu Kanda Volunteer 専修大学ボランティア団体) 他大学生、消防署

■内容

校内に下記の体験コーナーを設置。本部である災害ボランティアセンターから、指示カードをもらい、体験コーナーで20分ずつ体験、これを3回行うことで、生徒は3つのコーナーを体験できる。

体験後は、ワークシートに体験の内容と感想を書く。

(導入15分、体験：移動を含めて30分×3、まとめ15分)

クラス混合で分かれるチームは事前に学校でメンバーを決めておく。各チームには以下の係を置き、チームごとに行動する。実際に被災地でのボランティア活動を想定している。

- ・班長 班全体の動きを確認、指示する。
- ・情報 体験後に災害ボランティアセンターに戻り、報告、次の指示を受ける
- ・記録 体験内容と課題等を記録する
- ・救護 班員の体調を確認する

A 災害ボランティアセンター

各チームから報告を受け、次の指示カードを渡す。

ボランティア活動修了者へのメッセージカード作成

災害ボランティアセンターに必要な物を考える。

B 情報収集

無線機の使い方を習い、体験コーナーでどのような活動が行われているかを本部に報告、体験コーナーで怪我等がないか巡回。校内に隠したぬいぐるみ(逃げたペットと想定)を探す。

C 救急法

応急手当について学ぶ。三角巾の他に、身近なものを使った応急手当も体験。

D 救助搬出

瓦礫の下敷きになった人の救出、車椅子搬送体験、視覚障害者介助体験

E ロープワーク

F 非常食づくり

次のグループ用のアルファ化米をつくり、前のグループが作ったものを試食。

防災グッズクイズ、実際のグッズを体験。

G 防災倉庫

校内の防災倉庫に行き、備蓄品を確認。

倉庫の場所に行くまでに、備蓄品を予想、実際の備蓄品を確認する。

H マップづくり

学校周辺地域の白地図に、危険と思う場所を書き、発表

I 震災シミュレーションクイズ

◆事前学習 講演「災害支援への取り組み」(25分×5回+まとめ20分)

学年が5クラスのため、様々な立場で災害支援活動を行っている5名の方から、被災地に入った経緯、被災地の現状、支援活動内容、活動を通じての思い等を話していただく。質疑応答、移動時間を含めて25分。

ICT機器の移動時間をとらなくてすむよう、講師を固定し、生徒が5つの教室を移動した。

- ・地域ボランティアセンター職員 災害ボランティアセンターの活動紹介
- ・大学生ボランティアの支援活動体験談 異なる活動をしている2団体から1名ずつ
- ・NPO法人コドモ・ワカモノまちing 団体の被災地支援活動の紹介
- ・災害救援ボランティア推進委員会 防災体験の必要性について

まとめ ワークシートに記入



◆事後学習 実践ワーク

「もし、ここが避難所だったら? ~自分の言葉で語ってみよう~」

- ・講演「直下型地震が起きたら・・・」(20分)
- ・グループワーク (90分) 体験活動を行ったグループで実施
設問に対して、最初に個人で付箋にできるだけ思いつく回答を書き、グループで1枚の模造紙にまとめる。

設問1 避難所には、どんな人がくる?

設問2 どんな問題がおこる?

設問3 私たちができることは何だろう?

いくつかのグループの発表

- ・講演「私たちにできること」(20分×2名)
大学生の活動報告と今後の活動紹介
- ・まとめ ワークシートに記入



作成資料

ワークシート、各コーナー進行表

支援団体情報 (URL 等)

NPO法人コドモ・ワカモノまちing <http://www.k-w-m.jp/index.html>